

## 徳島県

- ①県立武道館観客席
- ②ベンチ（可搬式）
- ③ボックスシート
- ④ギャラリー

### 【概要・アピールポイント】

本県では、事前キャンプ地となった施設等においてレガシー材を活用することで、東京2020オリ・パラレガシーを次世代に継承するとともに、徳島すぎの魅力をも併せて発信している。また、デザインと制作について、公募型プロポーザルにより様々な提案の中から採用したことで、レガシー材の意義や理念を伝える作品となり、使いやすいものとなっている。

### ■ 資材提供のきっかけ

東京2020オリ・パラを契機に、首都圏等に向けて徳島すぎの魅力を発信するとともに、大会後に返却されるレガシー材を活用して県民総ぐるみの木づかい運動の機運醸成を図りたいと考え資材提供することとした。

### ■ 提供した木材の概要

・スギ 22.78m<sup>3</sup>（柱・梁・土台等）

### ■ 用途

- ①県立武道館内観客席
- ②ベンチ（可搬式）
- ③ボックスシート
- ④ギャラリー

### ■ 用途決定までのプロセス

レガシー材の活用に向けた検討会において、オリ・パラレガシーの継承という観点から、事前キャンプ地となった施設等での利用を決定。

活用方法として、①県立武道館内の観客席、②木製ベンチ10基、③自由提案について、公募型プロポーザルにより、デザインと制作について県内事業者から募集したところ、6件の応募があり、審査委員会により選出された最優秀提案を採用。

### ■ 完成/使用開始時期

2022年10月

### ■ 製作・使用したものの設置・建設場所や利用者など

- ①徳島県鳴門総合運動公園内の武道館（鳴門市）
- ②徳島県蔵本公園内の相撲場（徳島市）
- ③徳島県立農林水産総合技術支援センター 玄関ロビー（石井町）
- ④イベント等で使用

### ■ 完成まで・完成後のエピソード

返却された木材を、できる限りそのまま活用し、徳島すぎ材の風合いを生かした仕上がりとしている。また、大工の伝統技術である「継手」「仕口」の加工を用い、金物をほとんど使用せず、構造をなるべくシンプルなものとする事で、材料費削減や工期短縮、メンテナンスの容易性を実現するだけでなく、環境負荷の低減や大工技術の伝承も図る取り組みとなった。



### 問合せ先

農林水産部 林業振興課 木材増産・加工流通担当  
電話：088-621-2484